

## 令和6年度 第5回学校運営協議会議事録

日 時	令和6年12月19日(水) 14:40~16:00
開催場所	下野市立南河内第二中学校 会議室
参加者	<p>〔学校運営協議会委員〕</p> <p>あきもと ふみこ おおもり ゆきこ かねこ ゆき こすぎ まりこ さかくら つかさ  秋元 史子 大森 由貴子 金子 友紀 小杉 満理子 坂倉 司</p> <p>はやし こういち よとりやま のりこ たざわ こういち なかざと あつし  林 宏一 世取山 紀子 田澤 孝一 中里 篤</p> <p>〔地域学校協働活動推進員〕</p> <p>うえの やすひさ  上野 保久</p> <p>〔事務局〕</p> <p>たかやま やすこ  高山 靖子</p> <p style="text-align: right;">(10名)</p>
議 題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学校の教育活動について意見交換 <ul style="list-style-type: none"> <li>・本日の「英語コミュニケーションDAY」の様子について</li> <li>・小中合同クリーン活動(11/19)の振り返り</li> </ul> </li> <li>2 部活動の地域移行について <ul style="list-style-type: none"> <li>・校長より現状の説明</li> </ul> </li> <li>3 その他</li> </ol>
議 事	<p>【本日の「英語コミュニケーションDAY」の様子について】</p> <p>小杉 大森 金子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本日の「英語コミュニケーションDAY」についての感想をお聞かせください。</li> <li>・タブレットで作成するプレゼンテーションに、キャラクターを入れたり、動画を使ったりして見やすかったです。また、説明の際には、英語の質問に対して英語で返していたり、苦手な子には得意な子が補ったりしていました。去年は1年生の授業を参観しましたが、その時は先生方が日本語でアドバイスをしていました。今年はオール英語で学習している姿に成長を感じました。</li> <li>・私たちの中学校の時と比べ、伝えるとか聞くことを重点的に学習していて、授業の内容の違いを実感しました。タブレットで作成したプレゼンテーションの内容も人それぞれで、その子らしさがよく表れていました。グループで発表したときには、一方的に話すだけでなく、ALTの先生がアイコンタクトやスマイルなど、伝える時に大切なことも指導しており、英語に限らないコミュニケーションの学習もできていると感じました。昨日も授業参観で見せていただきましたが、今日は子どもたちの近くまでいけて、本当に良かったです。また、途中で言えなくなった子を補う子がいたのも良かったです。</li> </ul>

小 杉	・仲が良いというか、できない子に対してフォローする子がいて、いい雰囲気だと感じました。男女の仲も良く、子どもたちは学校に来るのが楽しいだろうと思いました。
坂 倉	・素晴らしい授業で、自分が中学生の時にあんな授業ができたかなと思いました。アイコンタクトをしてしっかり会話ができている子がほとんどですが、中には、棒読みの子もいました。今日のような英語の授業を通して会話をする楽しさを感じてほしいと思いました。
林	・子どもが中学生の時、ALTとは何かと聞いたことがありました。その時、外国人の先生のこと知ったのですが、今日は8人もいてびっくりしました。
高 山	・今日はコミュニケーションDAYとして、市内のALTが全員二中に集合した特別な日です。
林	・それでもこのようにALTが集まって授業する日はなかったと思います。グループにALTが一人ずつ入り、子どもたちと対面でコミュニケーションをとっている授業は、とても意義があると思いました。
上 野	・英語のシャワーを浴びているような授業ができているのが、素晴らしいと思いました。昨年よりも声が大きくなり、ALTのアドバイスにも耳も傾け、コミュニケーションDAYはとても有意義だと思いました。また、担当の先生がALTと上手に連携を取っていきまして、英語の先生の指導力を感じました。
小 杉	・発表のテンプレートがあるので、苦手の子も発表ができていました。プレゼンテーションは、日本語より英語の方が失敗を恐れず、堂々とできると思いました。クラスの雰囲気も夏椿祭の後で仲が良く、とても楽しそうな授業でした。
金 子	・授業は急遽2年3組になったと聞きましたが、私たちが参観している中でもしっかり発表ができていて、場慣れしていると感じました。
大 森	・こんなにタブレットを使っている学校はないと思います。他の中学校や高校の話聞いても二中のタブレット活用力の高さを感じます。まとめる際に、1つのページの中に情報を盛り込みすぎない点もいいと思います。
田 澤	・小学校でもタブレットを同じように指導して、同じように使っているので、小中一貫教育の成果だと思います。また、先日14日に、下野市でイングリッシュフォーラムが行われ、二中は1年生が参加しました。この活動は、英語を使って下野市のことをプレゼンすることを目指した、しもつけ未来学習の取組の1つです。その取組の成果が表れていたと思います。
上 野	・1年に1回、多くのALTの先生と触れ合うのは、本当に良い活動だと思います。
田 澤	・以前、ALTは下野市で雇っていましたが、現在は、全員派遣会社から派遣されているALTです。派遣会社には、下野市は英語コミュニケーションDAYをやる予定なので、それを考慮してALTを派遣して欲しいとお願いしました。今日のような

	<p>に1年に1回各学校に ALT が集まり、私たちが昔受けたような授業ではなく、実際に使えるようになる英語の学習を行っています。</p> <p><b>【小中合同クリーン活動（11/19）の振り返り】</b></p>
大 森	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私は二中と緑小の間の遊歩道に毎回行きますが、近所の方の協力が年々多くなっていると感じます。毎回協力してくれる男性の方もいます。その方が、「自分がやらなくちゃいけないのに、中学生が来てくれてすごく助かる」と感謝してしまして、それを子どもたちが聞いていたので、うれしかったと思います。小学生も中学生もみんな一生懸命取り組み、中学生が袋を広げて小学生が落ち葉を入れる姿も毎年見られ、本当にいい活動だと思います。私は、毎年この時間を楽しみにしています。</li> </ul>
小 杉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが地域の方に直接ほめられるのは、とてもありがたいことです。それによって子どもたちはやる気にもなりますし、地域に貢献しようとする気持ちにもなってくれると思います。</li> </ul>
高 山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年は、中学生1人に小学生2人がついて、昨年よりもより深い交流ができたと思います</li> </ul>
上 野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年よりも中学生がリーダーシップをとり、小学生とコミュニケーションを取りながら活動していました。毎年毎年バージョンアップされているのを感じました。</li> </ul>
大 森	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年までは、小学生は担任の先生のそばにいるという感じでしたが、今年は担任の先生から離れて、中学生と一緒に活動していました。</li> </ul>
小 杉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の反省は、活動を継続させていくために、とてもありがたいことです。</li> </ul>
田 澤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットを使って振り返りを行っているので、集計結果もすぐに出ます。</li> </ul>
高 山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒からの感想は前向きな感想ばかりで、生徒にとってやって良かったという活動になっています。</li> </ul>
小 杉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異学年の子と活動するというのはとても大切なことで、いろいろな気づきもありますし、中学生は、もっとしっかりしようと思うはずです。また、ニックネームの名札もとてもいいアイデアで、来年もぜひやってほしいと思います。</li> </ul>
上 野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・反省をして、それが次の年に生かされていることがとても良いことで、そのような自主的な活動をこれからも続けてほしいと思います。</li> </ul>
田 澤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの活動場所でも教職員の指示がほとんど見られなかったのは、中学生がリーダーシップを発揮して活動をしているからだと思います。生徒の振り返りにも「指示を出せた」「しっかりと準備できた」という反省があり、中には、「もう1度やりたい」という感想もありました。小中合同のクリーン活動が、いい形で定着してきており、大切にしたい活動の一つです。</li> </ul>

田 澤

【部活動の地域移行について】

○校長より資料にもとづいて現状の説明（資料「下野市のクラブ活動展開」）

○この後、部活動の地域移行に関して活発な意見交換がなされました。

<主な意見>

- ・指導者を兼務で先生が行うのは、少し違う気がする。もし行うのであれば、退職した先生などがよい。
- ・野球部がなくなってしまうということで、祇園ライターズでやっていた子は、どうなるのか。南河小中に行くことになるのか。野球部以外にも友達がいるので、その子たちと離れるのはかわいそうな気がする。サッカー部のように、地域のクラブにはできないのか。
- ・地域移行は、地域の受け皿がないとできない。また、野球部は人数が少なく部活動の改廃規定によって廃部になるので、南河内第二中としての地域クラブへの移行は難しい。
- ・親の立場、子どもたちの立場、先生の立場を考えなければならないので、地域移行は簡単にはいかない。
- ・部活動がない影響か、放課後、公園などで子どもたちが集まっている様子をよく見るようになった。部活動のようにみんなでがんばれる時間がなくなってしまうと、非行まではいかないが、違う遊び方をしてしまうのではないかと心配もある。また、先輩後輩の関係も学べなくなってしまうと思う。親としては、部活動をやっていれば安心という気はある
- ・地域移行についての話は、以前もあった。その時は、小学校はすんなり地域に移行できたが、中学校は生徒指導ができなくなるという理由で顧問が反対した。
- ・クラブチームでも大会に出られるようにするなど変えていかないと地域移行は難しい。また、平日指導する先生と休日指導するコーチの間に指導の違いが出てしまうのも問題。
- ・放課後の過ごし方は、本来であれば学校の管轄ではなく、保護者の責任だと思うが、少し手を放しすぎている保護者も多いと思う。
- ・人数のバランスや中体連の大会への参加等も考えると、地域移行は八方塞がりな気がする。クラブチームの中体連への参加等は、学校単位でなく、下野市として中体連にお願いした方がよい。

<p>高 山</p>	<div data-bbox="338 226 1412 922" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラブチームになると、お金の問題も生じるので、やらせたくてもやらせられない家庭も出てくると思う。</li> <li>・勉強だけでなく、スポーツでがんばりたい子もいるので、そのような子が活躍できる場所が必要。先生の負担等も考えると、何が正解か分からなくなってくる。</li> <li>・今まで話題にもならなかったことなので、まずは、このように議論することが大切。</li> <li>・ここで話し合ったことが、市に伝わることが大切なので、先生方や市P連など、いろいろな方向から挙げて行ってほしい。</li> <li>・みんながハッピーになれる方法を考え、子どもたちが活躍できる場をつくっていききたい。学校運営協議会としても協力できることがあれば、積極的に協力していききたい。</li> </ul> </div> <p>・委員の皆様が、一生懸命学校のことを考えてくださるので、本当に心強く思います。今後ともお力をお借りすることが多々あるかと思いますが、よろしく願いいたします。</p>
------------	--

# 下野市の 地域クラブ活動展開

下野市地域クラブ活動  
ニュースレター No.1  
令和6年12月10日  
下野市教育委員会事務局

下野市では、国・県の方針を受け、地域の子供たちの新たな活動の場としての地域クラブ活動展開を計画しています。今回のニュースレターでは、学校部活動の地域移行、そして地域クラブ活動の在り方についてお伝えします。



下野薬師寺歴史館  
イメージキャラクター こまる べにまる 観光大使  
カンピくん

## 「学校部活動の地域移行」とは…

「『地域の子供たちは、学校を含めた地域で育てる。』という意識の下で、生徒の望ましい成長を保障できるよう、地域の持続可能で多様な環境の一体的な整備により、地域の実情に応じスポーツ・文化芸術活動の最適化を図り、体験格差を解消することを目指すもの」です。学校部活動を地域クラブ活動に代替させていくことを、「地域移行」と称しています。

【参考】『学校部活動及び新たな地域クラブ活動の 在り方等に関する総合的なガイドライン』  
(R4.12スポーツ庁・文化庁)



現在活動中の学校部活動を地域に移行する必要があるのですか？

学校部活動を取り巻く環境の急速な変化により、現在、学校部活動は様々な課題を抱えています。将来的にはその存続が懸念されています。

## 学校部活動が抱える課題

- ◆ 少子化による部活動参加人数の減少
- ◆ ニーズの多様化への対応の困難さ
- ◆ 学校間の部活動設置数差の拡大
- ◆ 担当教職員の負担増大 等

〇〇をやってみたいけれど部活動にはない…



今の部活動のほかに〇〇もやってみたいけれど…

時代と共に、生徒のニーズは多様化しています。また、令和5、6年度には、下野市教職員協議会から「部活動の早期移行」の要望書が下野市に提出されました。



将来にわたって生徒が多様な活動に参加できる機会の確保や、「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革」の推進からも、可能な限り早期に学校部活動を地域に移行することが求められています。

## 地域クラブ活動とは…

「地域クラブ活動」とは、「学校部活動」とは異なり、**地域が主体となって行う新しい形の活動**です。現在、全国的に休日を中心とした「地域クラブ活動」の設置が計画されています。



現在、学校部活動として設置されている活動が、そのまま地域クラブ活動になるのですか？

多様なニーズに対応できるよう、今まで学校部活動になかった活動の設置も考えられます。



### 新潟県佐渡市の地域クラブ活動設置の例

学校部活動に含まれる内容を扱う「スキップ型」のほか、多様なニーズを踏まえた「エンジョイ型」の活動を設置しています。

【エンジョイ型の内容】

トレッキング、ボルダリング、硬式テニス、空手、ダンス、ゴルフ、水泳、自転車、体操、競技かるた、イラスト、写真、習字、英会話、佐渡探究、華道、茶道、プログラミング 等


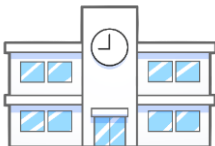
# 学校部活動と地域クラブ活動との違い



地域クラブ活動と学校部活動との違いは何ですか？

学校部活動が学校教育の一環であるのに対し、地域クラブ活動は**地域が主体**となつて行う**社会教育の一環**になります。そのほかにも様々な違いがあります。

## 学校部活動

位置付け	学校教育(課外活動)の一環
実施主体	学校
指導者	部活動顧問、外部指導者
参加者	当該校の生徒 
活動場所	主に学校施設 
活動費用	部活動費等
登録保険	スポーツ振興センター 災害救済給付制度利用

## 地域クラブ活動



位置付け	社会教育の一環
実施主体	運営団体
指導者	運営団体に登録した指導者
参加者	クラブ加入者(中学生以外も含む場合があります) 
活動場所	公共施設、学校施設等 
活動費用	クラブ運営費等
登録保険	所属する団体の加入保険

## 下野市における学校部活動の地域移行に向けたスケジュール

文部科学省では、令和5～7年度を「改革推進期間」に位置付け、休日の部活動における地域連携や地域移行の早期実現を目指しています。下野市では、令和5年3月に「令和8年度に休日の部活動の完全移行を目指す」ことを決定し、同3月に中・義務教育学校教職員への資料配布・説明、4月には現在の中学2年生・義務教育学校8年生の保護者への説明を行いました。

### 地域クラブ活動移行に向けたスケジュール(予定)

令和6年度	令和7年度	令和8年度
9月以降、段階的に地域クラブ活動への移行を開始		休日の部活動を全て地域クラブ活動に移行
中学校1、2年生 義務教育学校7、8年生 上級生引退後の新体制での活動開始時から、準備が整った部活動※1から段階的に移行を開始します。	中学校全学年 義務教育学校7～9年生 順次、地域クラブ活動への移行を進めていきます。	中学校全学年 義務教育学校7～9年生 運動部活動、文化部活動ともに、休日における全ての部活動を地域クラブ活動に移行することを目指しています。
※1: 移行するには、指導者の確保や休日の活動における保険等の整備が必要になります。		

←教職員・保護者説明資料(R6.4版)より抜粋

令和5年3月時点では、令和8年度当初を移行完了の目標としていましたが、その後、関係団体等との協議を重ね、完了時期の目標を令和8年度末としました。

学校部活動の移行と並行して、児童生徒のニーズに合わせた地域クラブ活動の設置についても検討していきます。今後、小学生を対象としたニーズ調査を行う予定です。

次回配信は12月16日予定です。地域クラブ活動への移行までの流れを中心にお伝えします。



下野市役所ホームページでも情報を発信しています。





# 下野市の 地域クラブ活動展開

下野市地域クラブ活動  
ニュースレター No.2  
令和6年12月16日  
下野市教育委員会事務局

下野市では、国・県の方針を受け、地域の子供たちの新たな活動の場としての地域クラブ活動展開を計画しています。今回のニュースレターでは、学校部活動の地域クラブ活動への移行までの流れを中心にお伝えします。



## 令和6年度における地域クラブ活動移行

「下野市部活動地域移行に関する意識調査」(令和5年10月実施：中1・2／義7・8年生対象) 結果より

4. 休日の部活動が地域クラブに変わるにあたって、どのようなことが心配ですか。 ※複数回答可	
項目	回答数
全体	626
学校以外の場所で活動するときの移動方法	213
指導方針や練習内容など、平日の部活動との違いが生じるかもしれないこと	147
平日の部活動とメンバーが異なることによる新たな人間関係づくり	82
クラブの指導者との関係づくり	29
特になし	143
その他	12

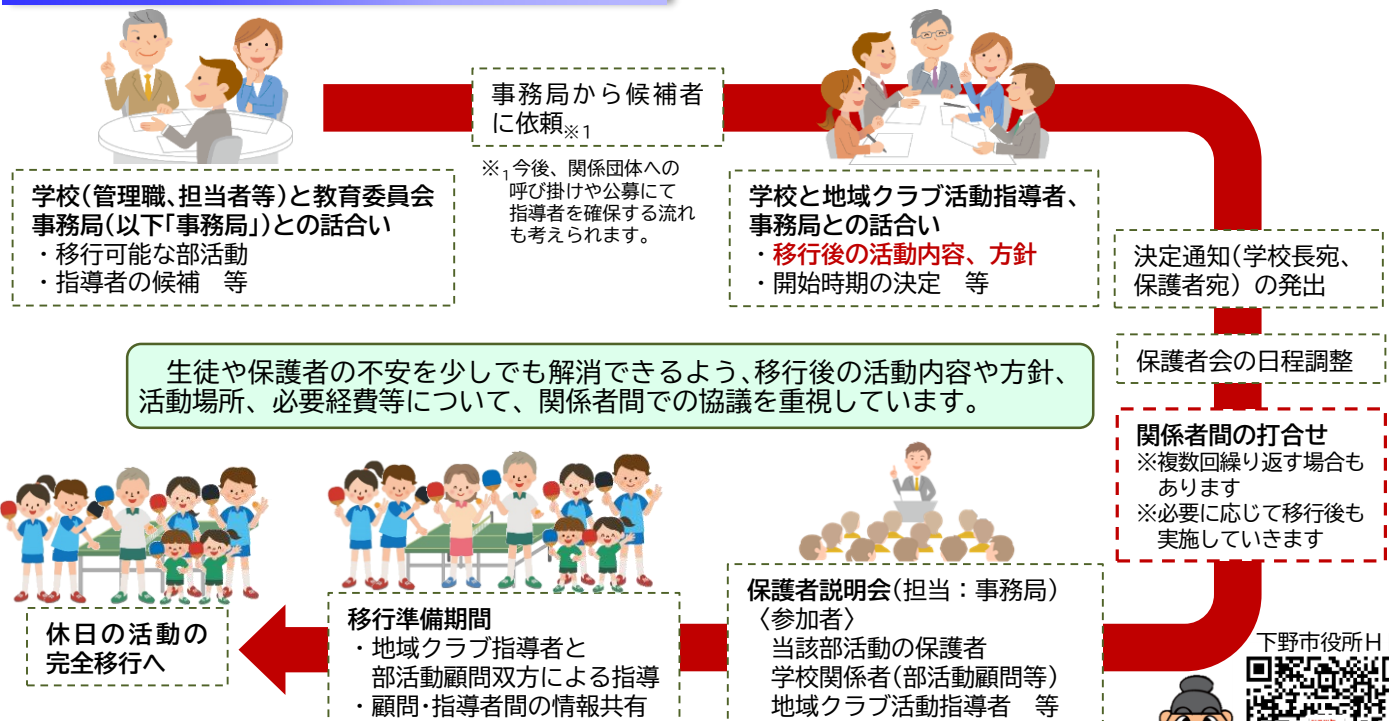
移行後の不安として、**活動場所への移動方法と部活動顧問と地域クラブ活動指導者との指導方針の違い**が多く挙げられました。



これらの結果を受け、検討委員会では移行初年度となる令和6年度においては、既に外部指導者が入っている学校部活動から地域クラブ活動への移行を進めることとしました。令和6年12月現在、外部指導者を地域クラブ活動指導者として迎え、2つの学校部活動が地域クラブ活動へ移行しました。今後、地域の団体への移行や新たに指導者を募集しての移行も検討しています。

## 地域クラブ活動移行までの流れ

休日の学校部活動を対象としています。実情に応じて、順序や内容が異なる場合もあります。



次回配信は12月20日予定です。移行後の各種大会等への参加形態等、移行後に変わる内容・変わらない内容を中心にお伝えします。



下野市役所HP